

- 2/10、17については、ロバのお弁当（味噌汁付）別途1500円でご用意できます。
- 竹細工WSの講師は、全て村上瞳さんになります。

■WS①ザル
2/10（火）10時～15時
【参加費】5500円
【定員】5名

■WS②四海波籠
2/17（火）10時～12時
【参加費】3000円
【定員】7名

■竹筒と竹籠と花のWS
講師
umenotoki 佐織さん

- 2/17（火）
13時半～15時
【参加費】3000円
【定員】7名
- 旧暦での元旦に当たる、立春も過ぎ春もすぐそこのおめでたい日和にぴったりの竹筒のお花を竹籠に合わせます。
- 午前のWS②に参加もしくは、籠ご購入の方対象となります。

■WS③鍋敷き
2/28（土）
午前の部10時～12時
午後の部13時半～15時半
【参加費】3500円
【定員】午前6名 午後6名

●ロバLunchご希望の方は、直接店舗にご予約下さい。
（TEL0774-24-5966）

【石のお話会】
講師 村上瞳さん

■2/11（祝）15時半～

『石は地球のかげら

人類が誕生するはるか以前に
うまれて何千万年、何億年もの
時を経ていま、出会えた奇跡』

しましま、つぶつぶ、ぐにゃぐにゃ、ピカピカ、ツルツル、
ザラザラいろんな石がどうやってできたのか、そのヒミツを
探りましょう！【参加費】大人 1000円 学生 500円

Workshop



展示販売会

- 会場に展示の石や竹細工については、ご購入もしくは、ご注文(受注発注) 承ります。後日お渡しの商品については、配送（別途送料）又は、店頭渡しにて対応可能です。
- ご希望のサイズで特別注文をお受けできる籠もございます。
- 村上瞳×工房うたたによる、柿渋染色を施した商品も一部ございます。



【会場】

宇治橋通りロバ
〒611-0021 京都府宇治市宇治壺番83
宇治駅（京都駅からみよこ快速で15分）から
歩いて5分

Instagram



公式Line



【WS参加申込み・問い合わせ：工房うたた】
Instagram DMもしくは、公式LINEに、ワークショ
ップ名、参加者名前、電話番号ご記入の上、お申し
込み下さい。

宇治市まちのリビング促進創出事業

主催：ロバスタッフ

Bamboo artisan
Murakami Hitomi
竹細工職人 村上瞳

竹の命をまるごと活かす竹籠づくり。
幅広のひごを使い、
竹割包丁一本で仕上げる、
昔ながらの技をお楽しみください。



石と竹 の生活 道具展

2026. 2.4－2.28



竹は、
無尽蔵の天然資源。
竹を有効活用する
智慧と技を
未来につなぐ。

Stone —地球との共生— 『大地を知る』



河原や海岸に行って、そこに転がっている石を手に取り、そっと石の声を聞く。
そして、そのあたりの成り立ちや、その地域の文化がどのように発展してきたのか想像を巡らせる。

全ての動植物は水と大地と熱源（太陽、地熱）があってこそ生かされてる。地質がわかれば水と地熱についてがわかります。

「地球上の全ての生き物は地球と共に生きている⇒地球のことを知りたい⇒地質」にいっきつき、50年以上百姓として木や野菜、家畜と共生してきて、人が地球と共生するには「大地を知ること」なのだという結論に至る。

Bamboo —消えゆく伝統を未来へ—

戦後プラスチック製品が普及して以来、竹製品の需要が激減し、地域の暮らしを支えてきた竹林は竹藪へと姿を変え、いまや竹は日本全国の厄介者になってしまっています。職人も激減し、身ひごも使い竹の命を丸ごと生かせる、昔ながらの竹編みの技術が消えようとしています。

竹ほど優秀な天然資源はないと思うのです。赤ちゃんの時はタケノコとして食べられるし、竹の皮は防腐効果があって包装に使え、3年もすれば立派な竹材として建築や竹籠などいろんな用途に使えます。さらに竹は中空で軽いので女性でも1人で切り倒せるし、鋸と竹割ナタ1本でいろんなカゴが作れます。そして何より、最後は土に還ります。竹の生態や扱い方を紹介しながら、竹の世界をみなさまにお届けしたいと思います。



About us



Instagram



作家紹介
竹細工職人 村上 瞳
MURAKAMI HITOMI

滋賀県守山市在住。岐阜県山間部で椎茸栽培、養蚕、養鶏、稲作を生業とする百姓の家に生まれ、幼い頃から両親や祖父母と毎日山や田畑に入り手伝いをしながら育つ。
30年前に滋賀県の4世代同居の兼業農家に嫁ぎ、米、野菜、果樹の栽培と烏骨鶏・雉の飼育をしながら、食糧の多くを自給自足する暮らしを50年以上続けている。

10年前に、当時86歳の竹籠職人のおじいさんに弟子入りし、2年後から竹籠の販売・教室をスタート。
滋賀県各地で竹かご教室を主催。教室では竹林整備に重きをおき、竹林整備の必要性や、メリットなど竹の生態や、安全な伐採作業の進め方などを伝えながら、滋賀県各地で竹林整備イベントを開催している。

■青竹職人の師匠が伝えてくださった 竹かご制作の特徴

- ・竹の皮だけでなく身も使い適材適所に配して編むことで、竹の命をできるだけ無駄なく、まるごと使う。切り出した竹の9割以上を竹かごとして有効活用しています。
- ・基本的に13ミリの幅広のひごを使います。
- ・「割る、へぐ、かんながけ」全ての工程を竹割包丁1本だけで行います。



谷喜助師匠
TANI KISUKE